

道岳連だより

広報 NO. 86
令和 元年 5月 1日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>



企画にあたって … 海外登山普及の初回企画に札幌悠遊倶楽部から、「ヒマラヤしゃくなげ街道トレッキング」の話があり、道岳連の会員がどの程度海外企画に興味を示すか、昨年11月の研修所納めに計画案を発表してみました。その場で数名の参加申込みがあり、その後研修所納めに来ている会員同士で話が広がり、わずか数日で15名の定員に17名以上の応募があり、ホームページにアップする間もなく17名で打ち切り状態でした。予想した以上に海外に興味がある会員が多かったのは想定外でした。会員の皆様に周知する間もなく開催に至ったことをご理解していただきたく思います。

今後も皆様の希望を聞きながら、レベルを上げた海外山行も企画していきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

報告 … シャクナゲの開花時期に合わせて2019年度事業を前倒しして、3月25日から4月2日の9日間、ネパールアンナプルナしゃくなげ街道トレッキングを実施した。会長を含め会員16名(個人会員1名含む)、スタッフ1名の合計17名の参加。

3月25日 新千歳空港から仁川空港で乗り継ぎ、仁川市内のホテルに1泊する。

3月26日 仁川を出発し夕方にカトマンズ(標高1375m)に到着。

3月27日 ポカラ(標高830m)までセスナ機で25分。ポカラ空港に降りると目前にアンナプルナサウス(7219m)・マチャプチャレ(6999m)の絶景に皆さんシャッター切りに忙しい。待機していたマイクロバスに乗車し、登山開始となるヒレ(標高1400m)まで移動する。日本の道路と違い、デコボ

コ道を腸が捻れるかと思うほど飛んだり跳ねたり。そしてバスの幅ぎりぎりの狭い道をジグザクと急カーブをしながら、2時間40分でヒレに到着する。そこからトレッキングが開始となる。

標高差600m、石で階段状に整備された急な斜面(石段3600段らしい)を、2時間強ほど登り、ウレリ(標高2050m)のロッジに着く。天気が良く適度にかいた汗と運動で、食事とビールが美味しい。夕食にでたネパール定食のダルバートを、皆さんが好んで食べるのに驚く。

3月28日 良く晴れた天気の中左右に咲いている満開のシャクナゲを観ながらトレッキング。このコースは真っ赤なシャクナゲがメインで、赤色のシャクナゲはネパール国花、「ラリグラス」とも言う。途中のロッジで昼食を摂り、6時間でゴレバニ(標高2850m)に到着する。



シャクナゲの大木

3月29日 4時に起床しヘッドランプを点けて、シャクナゲの森を1時間20分ほど登るとプーンヒルの頂上(3165m)に着く。

ここからは、ダウラギリ(8167m)と遠方にアンナプルナI峰(8091m)・目前にアンナプルナサウス(7219m)・ヒンチュルー(5424m)・マチャプチャレ(6999m)、遠くにはマナスルまで朝陽に染まった絶景が観られるビューポイントなのだが、生憎の雲で何も見えなかった。30分ほど様子を見るが晴れる気配がなく下山を始めると10分ほど下ったところで、青空が出てきてどンドン雲の隙間から山々が顔を出す。思わぬ山の出現に喜び合い、思う存分写真を撮りロッジに戻る。

朝食を摂り準備をして出発の頃には再び雲が湧きだし、一瞬のご褒美をいただいた気分であった。高さ20m以上はあるシャクナゲの大木街道をアップダウンしながら、16時過ぎにタタバニ(標高2645m)に着き、今回の行程で一番長い一日が終わる。

3月30日 しゃくなげ街道最終日、この辺りのシャクナゲはピンク色、左右に咲いているお花を楽しみながら4時間でグルン族の住むガンドルン(標高1975m)に着く。



ロッジでの昼食

ロッジのテラスで絶景の山脈を観ながら昼食を摂り、その後ゆっくり休養。荷物を運んでくれたスタッフ達とはここでお別れとなるので、夕方から労いのパーティを行う。一人一人お世話になったスタッフにチップを手渡し、お礼をする。その後、夕食のダルバートをネパールの食習慣である手で食べることにみんなで挑戦する。逆にスタッフ達は食べ慣れないスプーンで食べて、お互いの文化に触れ懇親を深める。食事が終わるとスタッフ達とネパール民謡を踊り盛り上がる。久しぶりに弾けたように汗だくになって踊る皆さんがいた。

3月31日 前夜の豪雷雨(真珠玉大の雹も降る)も上がり朝から晴れ。最後の絶景を見納めて、モディコーラの溪谷に向かって山腹道を急下降、45分で迎えのマイクロバスの待つキムツェに着く。この日はポカラのフェワ湖の畔にあるホテル泊。午後から国際山岳博物館を観光し、お土産の買い物をする。

4月1日 ポカラからカトマンズへ。荷物のパッキング後、世界遺産であるネパール最大のストゥパー(仏塔)「スワヤンプナート」を観光し、夕方の飛行機でカトマンズを後にする。

4月2日 仁川空港で乗り換えし、昼に新千歳空港に着く。

今回のコースは、高度障害の心配はないのですが、日本との生活環境の違いから、食事や体調の心配がありました。軽い腹部症状が出た人も少人数いましたが、食事が口にあうとお代わりするくらいの食欲振りに驚き、長い行程にも難なく歩く健脚にも感心しました。お陰様で天気に恵まれアナンブルナ山群の絶景、満開のシャクナゲ街道、そしてネパールの文化や生活環境、宗教と信仰に触れ、それぞれの心に残る山旅になったと思います。

(文責 海外登山委員長 下山 シゲ子)

★紙面の都合で、参加者感想文は割愛させていただきました。道岳連HPをご覧ください。

第11回安全登山シンポジウム

2019年5月30日(木)18時 札幌エルプラザ3階ホール

北海道山岳遭難防止対策協議会と北海道山岳連盟が主催する、第11回安全登山シンポジウムが、5月30日(木)18時から札幌エルプラザ3階ホールで開催される。

シンポジウムでは「山の日」制定を機に、そして、本格的な夏山シーズンを前に、一般登山者に対して正しい知識と有用な情報を提供し、遭難防止に対する意識の向上と啓発をはかることを目的としている。

内容は、講演1 北海道における山岳遭難の実態(北海道警察地域部地域企画部指導官 西村和隆氏)、講演2 ココヘリの今…山岳遭難予防の新しいツール(AUTHENTEC JAPAN 代表取締役 久我一総氏)、講演3 山岳メディアでの経験かみる山の事故対策と環境保全(筑波大学山岳科学学位プログラム在籍 久保田賢次氏)の三氏が講演する。

協賛企業ブース展示は16時30分、開場17時、入場者数320名で入場先着順・無料となっている。

行事・各委員会事業報告

日高登山研修所開き 4/6-7 日高登山研修所

平成31年度の安全登山研修&日高登山研修所開きは、4月6日(土)~7日(日)の二日間、道岳連加盟団体会員と個人会員44名、スタッフ8名が参加し、日高登山研修所及び近郊で実施された。

14:00からの受付、開会式の後、恒例の研修所内外の清掃。15:30には、指導員全体会議が開かれ、平成30年度指導委員会事業の報告と新年度の事業計画が提示された。合せて、日本山岳・スポーツライミング協会が日本スポーツ協会の指導員制度改定と並行して進める「夏山リーダー」資格制度について、明田理事長が資料に基づき説明を行った。

その後、札幌山岳連盟 佐藤 眞会長が講師とな



佐藤講師の雪崩講習

り「雪崩講習会」が行われ、最新の雪崩遭難防止対策やアバランチトランシーバーの取り扱いについて講義をした。

17:30 からは交流懇親会で、食事は登別山岳会有志の皆さんが担当し、参加者は大いに懇親を深めた。二日目は、双珠別岳スキー登山と奔双上山スノーシュー登山、屋内研修は、雪崩講習の補修及び安全登山ロープワークの研修を行い、二日間の日程を終了した。



奔双上山スノーシュー班



双珠別岳スキー班

平成30年度 第3回理事会 4/14 札幌市教育文化会館

平成30年度北海道山岳連盟第3回理事会は、理事会において承認を得た各会計決算を5月の総会に提案するため、従来の3月から一ヶ月遅らせて4月14日に開催した。

議案として、第1号議案 平成30年度を振り返って 第2号議案 平成30年度事業報告 第3号議案 平成30年度収支決算報告 第4号議案 平成31年度活動方針及び事業計画(案) 第5号議案 平成31年度会計予算(案) 第6号議案 備品台帳報告 第7号議案 新規加盟申請 第8号議案 各種議題その他が提案された。

第1号議案で明田理事長は、平成30年度の諸行事が会員各位の協力で、ほぼ予定どおり実施できたことに謝意を表明。今後の事業運営では、交流登山会のブロック輪番制の検討、若年層の加入促進。社会的要請への対応として、2020東京オリンピックの機運を高めS Cの応援・広報、山の日事業を通じた一般登山者へのアピール、安全登山の啓発などをあげた。

また、日本山岳・S C協会の公益性に鑑み、従来型の加盟団体会員中心の登山教育から、一般登山者など国民すべての登山教育を束ねる組織運営が求められていること、日本スポーツ協会が2019年度に新しい指導員制度の立上げに取り組んでいることで、これらの対応が必要とされている状況について説明した。

今年度道岳連が主管する日山協・S C協会事業は、安全登山指導者研修会「東部地区」で、9月14-16日に東川町キトウシ森林公園・旭岳で開催される。全国(東部地区)から60名ほどの参加者が集うため、関係会員の協力の要請があった。

第2号～第3号議案は、各専門委員会担当者が報告し承認。第4号～第6号議案の新年度事業計画・予算は、ほぼ前年並みの事業や予算を組むことを説明し承認された。

第7号議案では「くしろ山岳会」の道岳連新規加盟を承認。第8号議案は、安全登山シンポジウム、全道交流登山会南空知大会(美唄山岳会、登攀道場美唄、岩見沢山岳連盟主管)、アウトドアフェスティバルなどの日程と内容の提示があり、承認され、理事会は閉会した。

山岳スキー指導員研修会 12/15-16 ニセコモイワスキー場ほか

‘18～‘19 冬山シーズン山岳スキー指導員研修会兼初・中級スキーヤー研修会は、ニセコモイワスキー場に道内各地より 23 名(受講 17 人、スタッフ 7 人)の方々が参加し開催しました。初日は 4 班に分かれ基礎スキーを十二分に滑りました。近年テレマークの参加者増え、今回初めてテレマーク班を編制し講習を行いました。

その後、雪秩父温泉地区のペンション群の一角にある「まつさんヒュッテ」で机上講習を実施しました。懇親会は明日の好天を願いながら盛大に行われ、親睦を深めました。

二日目は、宿泊先から車で数分の旧チセヌプリスキー場に会場を移して実践の山スキーでシール登行、キックターンなど基礎技術を学びました。今シーズンのチセヌプリスキー場は、キャットスキーを行っておらず、スキー場を登りビーナスの丘を目指しました。

雪が少ないながらもスキー場跡地を登ったので順調に高度を稼ぎ、尾根に出た所でピットチェックや抜き足キックターンの訓練を行いました。



その後リフト終点まで来ても天候は安定し視界良好。シャクナゲ山へ向けてコンパスを切りました。途中の講習で会得したターンの技術を駆使して登行しました。強風と時間切れでピークは踏めなかったが、深雪滑走の実践訓練をし、全員無事に P 場に集合し終了しました。

(スタッフ) 山岳スキー指導員 西嶋 克己 荒堀 英雄 相馬 範昭 藤木 晴夫

(報告 山岳スキー運営委員会 西嶋 克己)

受講者感想

いづき
伊槻さん

お世話になりました。今回は、アルペンで参加しましたが、来年はテレマークでお願いしようかと思えます。以下、簡単ですが感想文です。よろしくお願いいたします。

山岳スキー研修には、初参加させていただきました。アルペンスキーの講習は 45 年ぶりです。1 日目のニセコモイワスキー場での研修は、中級に参加しました。ボーゲン、直滑降など初級レベルの技術も含まれる研修でした。正直「またか」という感じもしましたが、新雪でのバランス、加重、エッジングを想定したもので、最終的には納得のできるものでした。

1 日目夕方の座学では、雪崩や救助法などが紹介されました。雪崩については、傾斜と発生確率に相関が強いことから、地形図・等高線間隔からの雪崩危険度の推測方法が提案されました。地形図で予測が付くのは漠然とは分かっていることですが、三角関数を用いて確実に説明して頂き、有意義でした。計画段階での雪崩予知方法として優れていると感じました。

2 日目の登山では、登高中のハンドとコンプレッションテストが行われました。雪崩講習会で習うのは当然ですが、通常登山での習慣づけとして、よくできた研修だと感じました。さて、新雪滑降ですが、1 日目研修で得たヒントを基にして、少しチャレンジしてみました。私は小回りが苦手でしたが、少し上達への糸口が掴めたように感じました。多人数の受講者を集めての研修実施について、ご苦勞の多かったことと存じます。改めてお礼申し上げます。

受講者感想

富良野山岳会 宮本さん

今回、会の仲間誘われて研修会に初参加しました。少々不安でしたが、次の3項目を研修の目標として望みました。

1 山スキー(テレマーク)の技術向上 2 山スキーを滑る際の知識習得 3 他の山岳会の方達と交流を通じて、山岳に対して自らのモチベーションを高める

1 項のテレマークスキーの技術向上に関しては、テレマーク班を設けてもらい西嶋さんのご指導の下、少数での実践指導を受けました。指導にあたり複雑な用語も一切なし！大変理解しやすい説明で安心しました。特に切り替えの際の重心移動及びスキー操作を主に教わり、固癖等の矯正に努めましたが、体が今一つ理解に乏しかったのが少々残念でした・・・？ 今後の課題が見えたので練習に励みます。

2 項の山スキーを滑る際の最小限の知識習得については、雪崩に遭わないために事前に研究をして、その場所に近づかないをモットーに実践したいと思います。特に *arahori method(2018)* の一つである「等高線本数から見た斜度」が感銘を受けました。これを大いに活用して雪崩回避に努めるとともに、天候悪化等で山に登れない時は、自宅で地図を見ながら研究しつつ山に登った気分になりたいと思います。(事前準備のため)救助要領は、手短な装具等を活用した要領を体験することができ、非常に参考になりました。

2 日目のシール登行に関しては、弱層テスト、地図判読等を教わり帰りは深雪で滑走し、パウダースキーの醍醐味を味わったが、脚力の弱さも実感 !! 3 項の「他の山岳会の方達との交流を通じて山岳に対しての自らのモチベーションを高める」は言うまでもなく、お酒の力も借り大いにモチベーションが上がり刺激になりました。

最後に、研修会を企画された皆さまに感謝するとともに、充実した2日間ありがとうございました。 **山，最高！！**

氷壁技術研修会 1/26-27 層雲峡銀河の滝

本年度の氷壁技術研修会は、1月26～27日にかけ層雲峡の銀河の滝で行われました。北見山岳会や斜里山岳会、釧路山岳会、富良野山岳会、北海道山岳連盟個人会員の皆さんなど、札幌周辺以外にも多くの参加をしていただきました。

道岳連副会長兼海外登山委員会委員長の下山さんをはじめ、工藤と札幌山の会の加藤さんの講師2名と参加者12名の合計15名で行われました。1名の個人会員の方が仕事の都合でキャンセルとなってしまい残念でした。



初日は天候もよく皆さん時間通りに集合でき、順調に取付きに向かい講習開始です。初心者と経験者が入るように分け、トップロープでのクライミング、ビレー、ビレー補助などを行い基本動作の確認です。はじめぎこちない初経験の方も、徐々にコツをつかみつつあります。

また、後半はつるはしで氷を削り、ちょっとしたハング気味の地形をつくり、形状の違いによる体や足さばきのルートをつくり、ワ

ンランク上の体験をしてもらいました。何本か登った人にはクライミングロープとダンラインロープでユマール登行、懸垂下降をしてもらい、ロープの違いやアイゼンでの登山、下山方法を体験してもらい終了です。

夕食後は机上講習で昼間の登りをおさらいし、明日への上達に向けた内容を行い、その後、本来予定講師の江崎さんのヒマラヤ登山のスライドショーを鑑賞しながら懇親を深めて終了です。

翌日もまずまずの天候の中、8時半頃より講習開始で、昨日よりも上達してもらおうよう頑張ってもらいます。若干ずらしたトップロープクライミングや、通称クルクルボンと呼ばれる懸垂下降後のスクリュウ回収方法やV字スレッド作成、弛めのトップロープ状態でリードでの中間支点、終了点の構築などのシステムを体験してもらった内容で行われました。昼頃に終了し、北見有志は自主練習で残り、その場で解散しました。

2日間風もなく、天候に恵まれ絶好の研修会日和で、参加者の皆さんは良い印象の研修会にうつったかと思えます。複数回この研修会に参加された方も、基本のおさらいによかったと思っていただけたようでうれしい限りです。この体験を高い山、高いレベルの山行にレベルアップしていくよう願っています。

また、役員の下山さん、講師の加藤さん、指導員の笠井さんのおかげで、目の行き届くケガの無い講習会ができました。皆さんありがとうございます。また、参加者の皆さんありがとうございます。

(報告 海外委員会 実施担当 工藤 寛)

受講者感想

人生初のアイスクライミング体験

加藤 英樹さん

北海道山岳連盟氷壁技術研修会参加、H. 31年1月26-27日の二日間。アイスクライミングは雑誌などではよく見ますが、怖い、難しい、お金がかかると思い、正直あきらめていましたが、北海道山岳連盟氷壁技術研修会の案内を見た時、初心者歓迎、おまけに道具も貸してもらえるとの事、これはやるしかないと決断し参加を決めました。

初日、不安の中、札幌から層雲峡まで車を走らせ、集合場所である銀河の滝駐車場に到着。早速、持ってきた道具を確認して準備。あれだけ確認したにもかかわらず、ポールを忘れる失態。実施担当の工藤様に相談したところ、快くお貸しいただけて一安心。長靴を履いて準備完了。

参加者は講師を含め総勢15名で出発。いきなり川を渡るのですが、場所によっては少し深いところがあり、水が入るアクシデントはあったものの無事に渡りきり、そこでアイゼンに履き替え遠くから凍りの滝を見ながら歩きます。現場に着くとなんと氷の壁。不安が更に増します。講師の加藤哲磨様に基本動作、ロープやアックス操作を教えて頂き、いざ、実際にやってみると怖さが先に来てしまい、蟬の様に氷壁にへばり付いてしまい上手くいかず、講師に指導頂き怖さを払拭でき、何とか登れるようになり感激でした。その後、何度となく練習を重ね、クライマーらしくなったかな。夜には机上講習と懇親会で、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

二日目、技術レベルに応じたコースでの練習。やはり回数をこなす事で体がスムーズに動くのには驚いた。この日は非常に寒くて順番を待つのも大変な時。役員の下山様からいただいたお湯とチョコレートが美味しかった。また参加しようと思いました。講師の皆さま及び参加した皆様お疲れ様でした。そしてありがとうございました。



受講者感想

斜里山岳会 長谷部 文香さん

アイスクライミングは全く経験がなく「怖そうだな」としか思っていませんでした。山岳会に入っていないければ、一生やらなかったと思います。

今回ご案内をいただき、初心者でも指導していただける、道具も貸していただける、天然の氷瀑に登ることができる、という点に魅力を感じ、冬山で役に立つかも知れないし、一回やってみよう、と思い参加を決めました。

やってみると、予想通り怖く、予想以上に寒く、アイゼンでカップのズボンとゲイターが裂けました…。しかし、もっと上手に登れるようになりたい、と思う不思議な魅力がありました。また、アックスなどの道具の使い方や、ビレイについても知ることができました。



夜にはエベレストの写真を見せていただいたり、他の山岳会の方とお話することができて刺激になりました。エベレストは一度見てみたいと思いました。

新しい世界を知ることができ、参加してよかったです。講師の方をはじめ、皆様には大変お世話になりました。

ありがとうございました。

冬山講習会 Part1 2/2-3 イワオヌプリ・五色温泉別館

冬山講習会 Part I 2019年2月2日-3日 ニセコ山系イワオヌプリ 宿泊 五色温泉別館

参加者⇒ スタッフ 6名 参加者 15名(一般参加1名、山岳会7名、個人会員7名)

《講習日程》

2日 ニセコ五色温泉コミュニティ駐車場集合 10時の予定でいたが、悪天で急遽五色温泉別館に変更する。11時開講式⇒ 座学講習開始、冬山のリスクと対策、スノーシューの特性、雪崩トランシーバーの使い方、シートによる搬送方法など。

14時から別館前を出て小雪の中での実技講習を実施した。16時に終了し、ビデオによるショベルコンプレッションテストを学び入浴・夕食・懇親会へと進めて22時就寝。

3日 朝食6時⇒ イワオヌプリへ向けてスキー班8名、スノーシュー班13名に分かれて出発7時⇒ 雪崩トランシーバーテスト、途中でショベルコンプレッションテスト、雪面に応じた歩行訓練をして10時山頂到着⇒ 12時別館到着、閉講式解散する。

《報告》

1日目は、各地から吹雪の中、全員集合しましたが、予定していたイワオヌプリ登山が出来ず残念でした。しかし最新の雪崩トランシーバーの使い方、実技講習を各自が立ち位置を変えての実習がよかった。

2日目は、天候に恵まれた。昨日の降雪により雪面のクラスト部分が緩和され、絶好の楽しい登山を満喫出来ました。参加者の方より、スノーボードで参加出来ないかとの問いかけもありました。スノーシューで参加し個人の能力の範囲内であれば、今後参加を考えて行きたいと思います。

(報告 普及委員長 横山 温)



シート搬送研修

スタッフ 明田 通世理事長 佐藤 眞 横山 温 橋本 一郎 細木 輝雄 横山 泰子



雪崩トランシーバーテスト

受講者感想

函館マウンテンクラブ N・Hさん

最初に少し自己紹介になりますが、私は函館マウンテンクラブに所属している 35 歳です。私の場合、冬山登山は主にスノーシュー登山または、スノーボードのバックカントリーとなります。

今回の講習に参加した経緯ですが、講習内容が自分の今後の登山人生で必須となる知識だと思ったからです。講習では冬山の基本について、またトランシーバー等「三種の神器」の使い方について学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました

講義の全体的な感想としましては、最も基本的なエッセンスの部分に限られた時間の中、上手く纏めて教えて頂いたと思っております。印象的な箇所としては、講師佐藤先生のしばしば熱のこもった説明に、安全登山に対する熱い想いを感じました。また、今回二日目は天候に恵まれたなか、イワオヌプリに登ることが出来ましたが、改めてニセコの山々の美しさを感じることが出来たと思います。

次回、冬山応用編として計画されている日勝峠での講習会につきましても、是非参加させて頂きたいと思えます。



冬山講習会 Part2 3/16-17 日勝ピーク・熊見山・1327 峰

冬山講習会 Part2 2019 年 3 月 16 日-17 日 日勝ピーク・熊見山・1327m 峰

宿泊 国立ひだか青少年自然の家

参加者⇒ スタッフ 7 名 参加者 15 名(一般参加 4 名、山岳会 6 名、個人会員 5 名)

《講習日程》

16 日 国立ひだか青少年自然の家駐車場集合 10 時 30 分⇒ 開講式を行い 11 時 日勝峠駐車場に移

動⇒ 12時スキー班(14名)、スノーシュー班(8名)に分かれて日勝ピークへ 14時 スキー班の後にスノーシュー班ピークに到着⇒ 日勝峠駐車場着 15時⇒ ひだか青少年自然の家着 16時 ⇒ 低体温症講習、夕食、懇親会、22時就寝

17日 朝食、8時30分出発⇒ 日勝三国の沢駐車場着 9時30分スキー班、スノーシュー班に分かれて出発。スキー班はP1327峰へ、スノーシュー班は熊見山経由 P1327峰へ 12時20分登頂⇒ 駐車場着 14時。閉講式後現地解散とする。



日勝ピークへの登り



室内研修

《報告》

第1日目は雪不足が心配された日勝ピークでありましたが、前日の降雪でくるぶし程のラッセルと天候も登るにつれて視界が良くなり、2時間で山頂に着きました。クラスト面が積雪で覆われ楽しい下りとなった。

第2日目は天候に恵まれた絶好の登山日和でした。スキー班はピークから2回の登り返しを行い、スキーエリアを堪能した。スノーシュー班は熊見山経由でP1327峰への縦走登山を楽しんだ。スノーボード参加者も楽しんでくれた。

(報告 普及委員長 横山 温)

スタッフ…秋元副会長 佐藤 眞 横山 温 橋本 一郎 細木 輝雄 加藤 陽子 横山 泰子

受講者感想

弟子屈町 T・Aさん

皆様、こんにちは。私は今回初めて北海道山岳連盟主催の冬山講習会に参加させていただきました。漠然と冬山登山をしたいという想いを抱いていたのですが、様々なリスクマネジメントを考慮すると、夏山と比較してやはりハードルが高いという印象があり、登山技術や知識の必要性も感じていました。そこで、このような講習会を通じて冬山に対する見聞を深めることができればと思い、今回参加させていただきました。



P1327 峰

冬山講習会 part2 については、1日目は日勝ピーク、2日目は熊見山～1328峰をそれぞれ目指す登山となりましたが、特に2日目は天候が良く、熊見山からの尾根歩きでは十勝の冬の大地を見渡すことができ、展望も楽しむことができました。

今回講習会に参加して感じたことは、冬山登山に関する知識や技術の必要性、それを習得することはもちろんなのですが、山という対象を通じて老若男女を問わず、参

加された方々同士が交流を楽しんでいらっしやる様子がさらに印象的でした。あらためて生涯スポーツ・活動としての登山の魅力を実感した次第です。今後も山を楽しく、安全に登るべく、機会があればこのような講習会に参加したいと思っています。

フチ冬山講習会 3/31 オロフレ山

フチ冬山講習会 2019年3月31日 オロフレ山

参加者⇒ スタッフ 3名 参加者 8名(一般参加1名、個人会員3名、協力山岳会員4名)

《講習日程》カルルス温泉サンライバスキー場駐車場集合 8時30分⇒ ゲート発 9時⇒ オロフレ峠付近から登山開始 9時40分⇒ オロフレ山山頂 12時30分⇒ オロフレ峠駐車場 14時40分 ⇒ サンライバスキー場・解散 15時10分

《報告》

30日 前泊希望者が2名おりましたので、スタッフ2名と共に室蘭岳白鳥ヒュッテで石炭ストーブとガスランタンでフチ懇親会を楽しみました。

31日 予定どおりにサンライバスキー場に集合し、夜間通行止めのゲートを9時に出発。登山開始地点の雪の状態からスノーシューは使わずにツボ足で標高差約200mを登り、稜線上へ到着する。スノーシューをデポして夏山沿いの雪稜を進む。視界が良くなく目指すオロフレ山は見えないが、風が弱いのが幸いだ。1040m最低鞍部からはアイゼン・ピッケルを使用して山頂到着。周りの景色が見えないのが残念だ。休憩後、下りの急斜面は確実にステップを切り慎重に下山する。計画どおりに登山口に到着し、普及委員会恒例の一丁締めで終了する。

令和元年、花の時期のオロフレ山も訪れてください。(報告 普及委員長 横山 温)



受講者感想

佐藤 仁彦さん

先日は、オロフレ山登山に参加させていただきありがとうございました。

横山さんを始め多くの方に助言をいただき、冬山登山に必要なスキルを学ぶことができました。感謝いたします。

一番印象に残っているのは、冬山において素手で作業をするのはご法度ということです。スキーの時も素手でビンディングをセットしており、冷たい手をポケットカイロで温めるスタイルになっていました。凍傷の危険があるので、今後普段から薄い手袋をした状態で紐や器具の調整をする練習をしたいと思っています。

次に、ピッケルの操作方法ですね。現地でも教えていただきましたが、改めていただいた滑落防止の資料を自宅で読み返しました。体で覚えた方がいいので、雪があるうちにピッケルと似たようなものでロープレしたいと考えています。今年の冬には本物のピッケルを購入しようかと思いますが…

所感ですが、平成の最後に“3つの初”を経験することができ、大変有意義な時間を過ごすことができたと感じています。3つの初とは、1) 2名以上のパーティでの登山 2) 簡易アイゼンとピッケルを利用した冬山登山 3) 胆振地区での登山

1)については、人数が多いとラッセルを交代できるので、無理なく時間の短縮と体力の温存ができることに気づきました。パーティもいいですね？ 2)については、ちょっとピッケルを使っただけですが、登山のスキルがアップした気分になりました。3) についてですが、石狩、後志、上川、釧路に続き5地区目です。エリアによって山の感じが異なるのが楽しいですね。ホロホロ山は夏に登る予定です。登山に関する情報交換ができ、満足しています。

以上が、今回の登山の感想となります。機会がありましたら参加させていただきたいと思いますので、その時はよろしくお願いします。

公認スポーツ指導者制度の改定に伴う一部資格名称の変更

2019年4月1日から現行の公認スポーツ指導者制度を改定施行することに伴い、競技別指導者資格(教師・上級教師除く)の名称が下記のとおり変わります。

指導員 ⇒ コーチ 1 **上級指導員 ⇒ コーチ 2** **コーチ ⇒ コーチ 3** **上級コーチ ⇒ コーチ 4**

○登録証の切り替えについて

- 新たな資格名称での登録証の発行は2019年4月1日付登録・更新手続きから順次、それぞれの資格更新手続きにあわせて行います。
- 現行の資格名称の登録証は、有効期限まで変わらずお使いいただけます。
- 更新手続き以外での登録証の発行については、有料での対応となります。ご希望の方は日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録係(Tel 03-5148-1763)または指導者マイページ内のメニューの「お問い合わせ」からご連絡ください。

○指導者マイページの表記変更について

- 指導者マイページに表記されている資格名称は、2019年4月上旬ごろから新名称に切り替わります。
- 指導者マイページ内のオリジナル名刺作成サービスも同時に新名称に切り替わります。

○その他

- 資格名称の変更に伴って、指導者の皆様に行っていただく手続きや追加の講習会などはありません。

公益財団法人 日本スポーツ協会 Sport Japan vol.42 より転載

日本山岳・スポーツクライミング協会 夏山リーダー資格制度

【概要】

かつては高校・大学山岳部や社会人山岳会で登山を教わり、パーティーで山を登るという形態が主流でしたが、最近は個人でネットなどの情報をもとに登山をする人が多く見受けられ、現在の主流となってきています。

そのような中で、登山遭難の事故が年々増加している傾向もあり、急な天候悪化に対処できず遭難するといったニュースもしばしば報道されています。

このような時代背景の中、安全に登山を楽しむために、必要な知識を取得し自立した登山者を育成する仕組みが必要となり、夏山リーダー資格制度を立ち上げました。

【講習会と資格制度について】

夏山リーダー講習会は、安全に楽しく一般のコースを登山するために作成された基礎知識をベースに、UIAA(国際山岳連盟)の Mountain Walking and Trekking (summer) に準拠するよう作成されています。

夏山登山(無雪期登山)を2年以上かつ10回以上の登山経験がある人を対象に開催される講習会を受講し修了すれば、講習会受講修了者という実績になりますし、終了後更に1年以上かつ10回以上の登山経験を積んだ人を対象に行われる検定に合格すると、UIAA公認の日山協「夏山リーダー」資格認定者となります。

なお、日山協に所属する登山組織(山岳会など)に所属した上で申請すれば、公益財団法人日本スポーツ協会公認の「スタートコーチ」資格も取得できます。

公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会 ホームページより転載

今後の諸行事(予定)

道岳連総会・第1回理事会

期 日 令和元年5月12日(日)

会 場 札幌エルプラザ

夏期遭難対策研修会

期 日 令和元年5月18日(土)-19日(日)

会 場 日高登山研修所と周辺

安全登山シンポジウム

期 日 令和元年5月30日(月)

会 場 札幌エルプラザ

夏山講習会 Part 1

期 日 令和元年6月8日(土)-9日(日)

会 場 洞爺湖中島、徳舜瞥山・ホロホロ山

登攀研修会

期 日 令和元年6月15日(土)-16日(日)

会 場 日高ロック

第 6 回ジュニア S C 奈良杯兼第 22 回 JOC ジュニアオリンピックカップ 大会北海道予選会
期 日 令和元年 6 月 16 日(日) 会 場 美唄市体育センター

夏山講習会 Part 2
期 日 令和元年 7 月 13 日(土)-15 日(祝) 会 場 トムラウシ山

パワフルレディース登山研修会
期 日 令和元年 7 月 27 日(土)-28 日(日) 会 場 楽古岳

美瑛富士避難小屋携帯トイレブース点検パトロール
期 日 令和元年 7 月 28 日(日) 会 場 美瑛富士避難小屋

第 74 回国民体育大会北海道予選会
期 日 令和元年 8 月 3 日(土)-4 日(日) 会 場 グラビティサーチ札幌・美唄市体育センター

ジュニア登山教室
期 日 令和元年 8 月 7 日(水)-8 日(木) 会 場 三角山・きたえーる

沢・登攀研修会
期 日 令和元年 8 月 17 日(土)-18 日(日) 会 場 富岸沢・登別ふおれすと鉱山

第 33 回北海道山岳連盟交流登山会南空知大会
期 日 令和元年 8 月 24 日(土)-25 日(日) 会 場 美唄山他・北海道グリーンランド

S C 指導員養成講習会 (前期)
期 日 令和元年 9 月 7 日(土)-9 月 8 日(日) 会 場 小樽潮陵高校

(開催要項等詳細は、道岳連HP各委員会のページ参照)

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No.86 令和元年 5 月 1 日発行

発 行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西 3 条 10 丁目 2-48

発行責任者 小野 倫 夫 編集担当(総務) 内 藤 美佐雄